

## 【農林水産物・食品の広報】 日ブータン食文化交流シンポジウム(ブータン)

開催日： 令和4年10月27日

場 所： ブータン王国 Centre for Bhutan and GNH Studies

主催(共催)：大使館（ブータン外務省, JICAブータン事務所）

協力／参加企業・自治体：群馬県土田酒造株式会社, SAKE Club India

在インド大使館

### 【概要】

- 2022年が、「日本とブータンの中で『青年海外協力隊派遣取極』が締結されてから35周年」「天皇陛下が日本の皇室として初めてブータンを訪問してから35周年」という節目の年であり、更なる両国の親交を図るべく本シンポジウムを企画。
- 「日ブータン食文化交流シンポジウム」と題して、日本とブータンにおける共通項である「祭事と酒」をキーワードに、日本酒そのものや日本の醸造技術に関する理解・認知度向上を図った。
- 日本酒および醸造文化の魅力を知らしめることにより、我が国自体への理解・興味・親近感を醸成し、ブータン国内における日本食・日本酒の普及の端緒となることや、本事業の主な対象者層をブータン政府関係者やティンブー市内の観光事業者、レストラン等の飲食業者、飲料輸入事業者とすることにより、これら参加者が、本事業終了後も日本酒に興味を持ち購買意欲を持つことで、ブータン国内における日本酒の新たな取扱い機会が創出されることを狙いとしました。
- 当日はタンディ・ドルジ外務大臣に加え、下院議長や農林大臣、経済大臣といった閣僚や次官級の政府関係者、ティンブー市内の酒類事業者や飲食・ホテルサービス事業者、同市内のサービス業専門学校の生徒及び関係者約100名が参加した。
- 参加者からは、醸造技術をはじめとする日本の食品加工技術に対して大きな関心が寄せられると共に、参加した現地ビール製造会社の経営者からは、ブータンにおける日本酒の醸造について検討したいといった声が寄せられた。
- ブータン国営放送BBSでも当シンポジウムの様子が報道された。

